

平成 29 年 6 月 29 日	病虫害発生予報 7 月号	茨城県病虫害防除所 茨城県植物防疫協会
---------------------	-------------------------------	------------------------

防護装備(マスク・保護メガネ・防除衣)を正しく着用しましょう
～平成 29 年度茨城県農薬危害防止運動期間中(6/15～9/14)～

< 目 次 >

I. 今月の予報	
【注意すべき病虫害】	
水稻：いもち病(葉いもち), 斑点米カメムシ類	1
ナシ：黒星病, ナシヒメシンクイ(第三世代幼虫)	2
果樹共通：チャバネアオカメムシ	3
夏ネギ：ネギハモグリバエ	3
【その他の病虫害】	
水稻, サツマイモ, ナシ, ブドウ, 夏ネギ, 夏秋ナス, 共通害虫	4
II. 今月の気象予報 5	
<p>最新の農薬登録内容は、(独)農林水産消費安全技術センターホームページの「農薬登録情報提供システム」(http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm)で確認することができます。</p>	
<p style="text-align: center;">詳しくは、病虫害防除所へお問い合わせ下さい。 茨城県病虫害防除所 Tel：0299-45-8200 予報内容は、ホームページでも詳しくご覧いただけます。 ホームページアドレス http://www.pref.ibaraki.jp/nourinsuisan/nosose/byobo/ フェロモントラップデータ随時更新中</p>	

I. 今月の予報

【注意すべき病害虫】

水 稲

1. いもち病（葉いもち）

[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
—	平年並	県下全域

[予報の根拠]

① 6月下旬現在、調査圃場の葉いもちの発病度¹⁾(本年値 0.1, 平年値 0.1), 置苗発病圃場率²⁾(本年値 6.3%, 平年値 6.8%)ともに平年並である。

- 1) 発病度：病斑をもとに算出した数値，最小値は0で最大値は100となる。
- 2) 置苗発病圃場率：置苗に葉いもちが発生している圃場の割合。

[防除上注意すべき事項]

- ① 置苗は、いもち病の発生源となるため、現在水田に置苗がある場合には、水田およびその周辺に放置せず、持ち出して土中に埋める等の処分をする。
- ② 稲の葉色が濃い所や水口等を観察し、初発の確認に努める。
- ③ 例年、梅雨明けまでは発生が増加するため、現在発生がみられない水田でも注意する。
- ④ 発生がみられる水田では、防除を実施する。なお、粒剤で防除する際は、必ず湛水状態で薬剤を散布し、環境への配慮から1週間は止水して、湛水状態を保つ。

2. 斑点米カメムシ類

[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
平年並	平年並	県下全域

[予報の根拠]

- ① 6月下旬現在、有効積算温度から予測したクモヘリカメムシの産卵開始時期は平年並である。
- ② 6月下旬現在、水田付近のイネ科雑草におけるクモヘリカメムシのすくい取り虫数は平年並である（本年値 0 頭，平年値 0.02 頭）。

[防除上注意すべき事項]

- ① 農道や畦畔等のイネ科雑草は、斑点米カメムシ類の生息場所となるため、除草を徹底する。ただし、出穂期近くになってからの除草は、カメムシ類を水田内へ追い込むことになるので、水稲の出穂2週間前までに終わらせる。
- ② 出穂が周辺よりも早い水田では成虫の飛来が集中しやすいので、発生には十分注意する。
- ③ 出穂期～穂揃期に多数の斑点米カメムシ類を認めた場合は、防除を実施する。
- ④ ミツバチ被害軽減のため、ミツバチの活動が最も盛んな時間帯（午前8時～12時まで）の農薬の散布をさける。

ナシ

1. 黒星病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	平年並	県下全域

[予報の根拠]

- ① 6月下旬現在、果実における発病率(本年値 0.4%、平年値 0.4%)、発生地点率(本年値 53%、平年値 43%)ともに平年並である。

[防除上注意すべき事項]

- ① 発病した果実および葉は第二次伝染源となるため、見つけ次第除去し、土中深く埋める等、適切に処分する。
- ② 薬剤散布は、発病部位を除去した後に行うと防除効果が高い。
- ③ 薬剤は、10a 当たり 300 リットルを目安に丁寧に散布する。圃場の周縁部等、薬液のかかりにくい部分に対しては、手散布等により補正散布を行う。

2. ナシヒメシンクイ（第三世代幼虫）

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	平年並	県下全域

[予報の根拠]

- ① 6月下旬現在、被害果率は平年並である。
- ② 6月下旬までのフェロモントラップへの第一世代成虫の総誘殺数は、県予察圃および地区予察圃(笠間市)、土浦市で平年並、地区予察圃(小美玉市、石岡市、かすみがうら市)で平年並～やや少ない。

[防除上注意すべき事項]

- ① 被害果を見つけた場合は、土中深く埋める等速やかに処分し、成虫の発生を防ぐ。
- ② 薬剤は、10a 当たり 300 リットルを目安に丁寧に散布する。圃場の周縁部等、薬液のかかりにくい部分に対しては、手散布等により補正散布を行う。
- ③ かすみがうら市、土浦市、筑西市の防除適期については、今後、病虫害防除所ホームページで情報を随時更新するので参考にする。

果樹共通

1. チャバネアオカメムシ

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	やや少ない	県下全域

[予報の根拠]

- ① 6月第5半旬現在、果樹園に設置した予察灯への総誘殺数は、かすみがうら市で平年よりやや少ない。

[防除上注意すべき事項]

- ① 夜温の上昇に伴い活動が盛んになり、果樹園へも飛来が増加するので注意する。果樹園内でカメムシ類を確認した場合には、活動が鈍い早朝に薬剤防除を行う。
- ② 6月下旬現在、一部圃場のナシ果実において、種は特定できないがカメムシ類によるとみられる吸汁被害を認めたので注意する。

夏ネギ

1. ネギハモグリバエ

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 6月下旬現在、被害度^{*}は平年より高い（本年値 12.0，平年値 4.0）。

※被害度：食害の程度をもとに算出した数値，最小値は0で最大値は100となる。

[防除上注意すべき事項]

- ① 今後は気温の上昇に伴って増殖が速くなるので、発生圃場では速やかに防除を実施する。
- ② 薬剤散布の際は必要に応じて展着剤を加用し丁寧に行う。また、収穫前日数に十分注意する。
- ③ 薬剤抵抗性の発達を抑えるため、IRACコードもしくは系統の異なる薬剤をローテーション散布する。

【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予測	発生概況および注意すべき事項
水稲	縞葉枯病	発生量：多い	6月下旬現在，県西地域の一部圃場で発病を認めている。また，県西，県南地域におけるヒメトビウンカ第一世代幼虫のイネ縞葉枯ウイルスの保毒虫率が，10%以上の高い値となった地点が認められている（平成29年6月12日発表 病害虫発生予察注意報第1号参照）。
	イネツトムシ	発生量：平年並	6月下旬現在，平年並の発生である。7月中～下旬に発生が多い場合には，幼虫が小さいうちに防除を実施する。
	ニカメイガ		6月下旬現在，平年並の発生である。ただし，6月第5半旬までのフェロモントラップへの総誘殺数は，龍ヶ崎市および筑西市で平年より多いので，本田での発生に注意する。
サツマイモ	ナカジロシタバ	発生量：平年並	6月下旬現在，平年並の発生である。
ナシ	ハダニ類	発生量：平年並	6月下旬現在，平年並の発生である。
	ハマキムシ類		
ブドウ	褐斑病	発生量：平年並	6月下旬現在，平年並の発生である。
	晩腐病		6月下旬現在，平年並の発生である。袋かけ前の防除を徹底する。
	べと病	発生時期：早い 発生量：平年並	6月下旬現在，発生時期が早いので注意する。
夏ネギ	さび病	発生量：多い	6月下旬現在，平年より多い発生である。今後は気温の上昇に伴って新たな発生は抑制されるが，既に発生している圃場では防除を実施する。
	ネギアザミウマ	発生量：平年並	6月下旬現在，平年並の発生である。
夏秋ナス	チャノホコリダニ	発生量：平年並	6月下旬現在，平年並の発生である。県予察圃（笠間市）の無防除区で平年より多い発生がみられる。
	ハダニ類	発生量：平年並	6月下旬現在，平年並の発生である。
	アザミウマ類	発生量：平年並 ～やや少ない	6月下旬現在，平年並～やや少ない発生である。一部圃場で，ミナミキイロアザミウマの被害葉が発生している。
共通害虫	オオタバコガ	発生量：平年並	6月下旬現在，フェロモントラップへの総誘殺数は，土浦市，龍ヶ崎市および筑西市で平年並である。
	ハスモンヨトウ	発生量：やや少ない	6月下旬現在，フェロモントラップへの総誘殺数は，県予察圃（水戸市，笠間市）で平年並，鉾田市，龍ヶ崎市および筑西市で平年よりやや少なく，土浦市で平年より少ない。

II. 今月の気象予報

関東甲信地方1か月予報

(予報期間 7月1日から7月30日)

気象庁(6月29日発表)

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

[確率]	要素	予報対象地域	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
	気温	関東甲信全域	10	30	60
	降水量	関東甲信全域	40	40	20
	日照時間	関東甲信全域	20	40	40

[概要]

期間の前半は、平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。期間の後半は、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

<1週目の予報> 7月1日(土曜日)から7月7日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年より高い確率80%

<2週目の予報> 7月8日(土曜日)から7月14日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年より高い確率60%

<3週目から4週目の予報> 7月15日(土曜日)から7月28日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並の確率40%

農薬を使用する際は

- 1 使用する農薬の「ラベル」と登録変更に関する「チラシ」等を必ず確認し、適用作物、使用方法、注意事項等を守りましょう。
- 2 散布時には、周辺作物に飛散(ドリフト)しないよう注意しましょう。
- 3 農薬の使用状況を正確に記録しましょう。
- 4 薬剤抵抗性の発達を抑えるため、異なる作用機構分類※(FRACコード、IRACコード)の薬剤を用いてローテーション散布しましょう。

※作用機構分類については、病虫害発生予報5月号(平成29年4月27日発表)の防除所レポート参照

- 5 農薬の使用後は、散布器具やホース内等に薬液が残らないように良く洗浄しましょう。